

2015年7月1日
47号

かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株式会社製作所ひたちなか総合病院
〒312-0057
ひたちなか市石川町20番1
TEL 029 (354) 5111
発行人 飯嶋和秀
編集 広報委員会
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>

【ひたちなか総合病院理念】

「地域を護る病院」として説明責任を基本とした最新の技術とサービスを提供し患者さんが納得・満足される医療を遂行する

【ひたちなか総合病院基本方針】

「地域の皆さまの信頼と満足が私たちの生きがいです」のもとに、①急性期から回復期までの一貫した医療を充実させて地域完結型医療を推進する②教育・研修を充実させて最新の医療技術を確認し、職員満足を向上する③説明責任と最良のサービスを遂行し、患者満足を向上する④質を基盤とした総合的医療の質経営を実施し、持続成長可能な病院にする を実践する。

【2015年度品質目標】

- 地域医療ビジョンに基づく医療を提供する・地域包括ケアシステムを構築する（救急、訪問診療科と地域ITネットを充実する）
- 院内事故調査委員会等安全管理システムを緻密化する・教育・研修センタを再構築する・データウェアハウスを完成し、データ管理を徹底する・産科の再開に向けた環境整備する・電子カルテをシステム更新する（As Is から To Beへ）
- 院内全体の役割分担と責任権限を徹底的に追究する・持続成長可能な病院経営する（医療のスマトラを推進する）

ごあいさつ

院長 永井庸次



新緑を過ぎ初夏のこの頃、皆様方には健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。当院も2010年6月に新築オープンして早いもので丸5年経過しました。いうまでもなく、その間2011年3月には東日本大震災がありました。

5年経過して本年4月には、リニューアル当時から目標としていた、国からのがん診療連携拠点病院の認可をいただきました。職員一同の努力の賜物でもあります。皆様方、行政のご指導・ご支援がなければ不可能であったと感謝申し上げます次第です。

今年度は在宅医療・訪問診療の担当医師1名、産科復活に向けた核となる産科医1名を採用いたしました。在宅医療については、訪問診療と24時間訪問看護ステーションの充実など一歩一歩前進していますが、今まで以上に行政や介護施設等との連携が必要と痛感しております。産科医療は過去10年休止していましたが、今後の高齢出産の増加を含め総合病院の産科は必須と思っていますので、医師の更なる確保、助産師の確保・再教育、助産師外来開始に向けた取り組み、現在内科病棟として使用中の産科病棟をどのように再構築するのか、新病棟増設が必要なのか等、2年程度時間をかけて解決していきたいと考えています。そのためにも、医師会、ひたちなか市、茨城県、大学等との連携が必須と思っています。

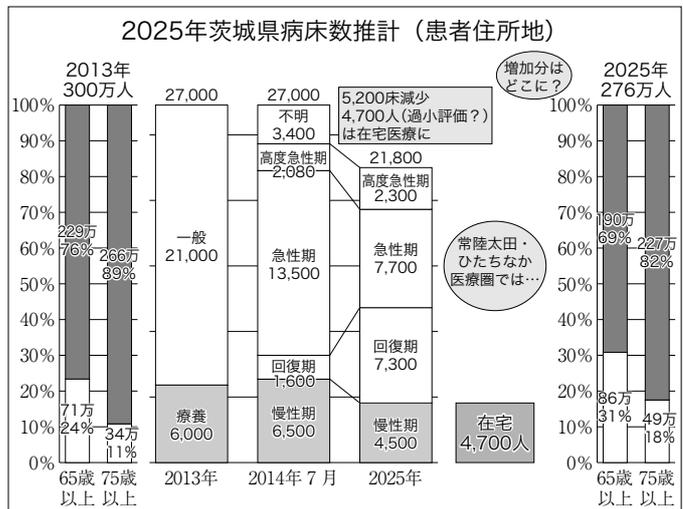
6月15日の新聞紙上をご覧になって驚かれた方々がいらっしゃると思います。病床削減、全国で1割、15万床、茨城県も19%削減という見出しです。内閣官房調査室公表データですが、当院も早速茨城県のデータを整理しました(図)。もちろんこのデータはあくまで参考値であると厚労省は言っていますし、団塊の世代が75歳以上になる2025年には高度急性期、急性期、回復期、慢性期の病床が何床必要なのか、その構成を示したものです。このデータはある假定(茨城県の入院患者さんが100%効率的に、ある機能を有する病棟からある機能を有する病棟(例えば急性期から回復期病棟)に適切な時期に全員移動する)のもとに試算された数値です。よって、医療現場ではこのように効率良く患者の移動は生じないので、このデータは最低限の病床数を示しているもので、実際にはこれ以上の病床が必要になってくることは間違いありません。また在宅も4700名という試算ですが、老老介護の時代にこれらの在宅患者を支援する家族の方々が本当にそれだけいるのでしょうか。

これらのデータを基に不足する病床、機能をどのように地域で調整していくかが、本年4月に施行された地域医療構想(ビ

ジョン)です。重要な点は現状の病床を削減するのではなく、不足する機能(回復期や在宅など)をどのように地域、特に二次医療圏で調整・充足していくかということです。更に、患者さんの流出・流入率に関しては、現在当市内の入院患者さんの40%前後は水戸市内の病院に入院されていますが、2025年以降高齢者の更なる増加の中で、今後とも30分以上かけて水戸市の病院に入院・通院が可能かという問題もあります。図はその意味で患者住所地別の必要病床数を示しており、医療機関所在地別のデータではありません。患者さんのお住まいの地域で医療・福祉・介護を完結していくためにはどうすれば良いか、改めて皆様方に今一度考えていただきたいと思います。この地域の医療は地域で護るという地域完結型の医療を構築していくための地域医療構想の検討がこの6月から茨城県でも始まります。是非、常陸太田・ひたちなか医療圏、特にこのひたちなか市の医療を護り、この地域で医療を完結するためには、当院のような高度急性期、急性期、回復期を担う医療施設だけではなく、市内全域の在宅・介護を担う諸施設と医師会、さらには市、県行政を含む諸機関で協議調整していくことが肝要と考えています。その中で、地域の医療を護るのは当院ももちろんそうですが、地域住民の皆様方の判断・決意です。

最後に、今回は主に地域医療構想のことを述べさせていただきましたが、救急、在宅、産科、増床、がんなど当院でも問題が山積しています。その中で、当院も職員一同精いっぱい努力いたしますので、皆様方におかれまして、更なるご支援をお願いして、本号の私のあいさつとさせていただきます。時代はまさに大きく変化しようとしています。今後は今まで以上に、皆様方を中心にした当院を含めた医療・福祉・介護機関と医師会、行政の連携が必須となることは間違いありません。

2025年茨城県病床数推計(患者住所地)

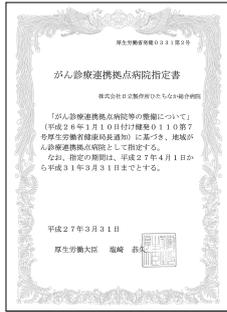


地域がん診療連携拠点病院指定

当院は、厚生労働省が定める「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」（2014年1月10日付健発0110第7号 厚生労働省健康局長通知）に基づき、地域がん診療連携拠点病院として指定を受けました。

これは、質の高いがん医療を受けられるよう、地域におけるがん診療の連携や支援を推進するための拠点となる病院です。

地域の皆様方に信頼される病院として最新の技術とサービスを提供していただけるよう全職員一丸となって努めてまいります。



食中毒にご用心

総合健診センタ 保健師 吉田 美子

高温多湿の夏は、腸管出血性大腸菌をはじめとする食中毒の原因となる菌が増殖しやすい環境となります。食中毒の約1割は家庭でも発生しています。食中毒の発生に十分注意しましょう。

〈食中毒防止の三原則〉

①微生物をつけない（清潔）

肉や魚、野菜などの食材に付いていた微生物が、手や調理器具などを介して食品に付着し、食中毒を起こすことがあります。手指や器具は常に清潔にし、食品を保存するときは、フタのある容器に入れたり、ラップをかけて相互汚染のないようにしましょう。

②微生物を増やさない（迅速・低温保存等）

食品に付いた微生物は、温度管理が悪いと時間の経過とともに増えていくので、微生物が増殖する時間を与えない、増殖できる温度を与えないことが大切です。調理された食品はなるべく早く食べ、食品を保存するときは、冷蔵（一般的に10℃以下、生食用魚介類は4℃以下が望ましい）して保存、また、食品を保温する場合は、65℃以上に保温しましょう。

③微生物をやっつける（加熱・消毒）

大部分の微生物は熱に弱いので、食品を加熱する際は、中心部まで十分に加熱することが有効です。しかし、加熱できる食品は限られているとともに、細菌が作る毒素は熱に強いので、加熱したからといって過信してはいけません。食器や調理器などは、洗浄後、熱湯や塩素系の漂白剤等で消毒することが大切です。

※腸管出血性大腸菌やサルモネラ、腸炎ビブリオなどによる細菌性食中毒の予防には、75℃・1分以上、ノロウイルスによる食中毒の予防には、85℃・1分以上の加熱をしましょう。

※食事の前の手洗いの徹底・睡眠の確保などの体調管理に加えて、食肉類を生で食べることは控えましょう。火が通りやすいように、肉を小さくカットしたり、中までしっかり火を通し予防に努めましょう。

第9回がん市民公開セミナー 開催のお知らせ お気軽にご参加ください

日時：7月24日（金）17時30分～18時30分

場所：(株)日立製作所ひたちなか総合病院 2階講堂

参加費：無料

開会の辞：(株)日立製作所ひたちなか総合病院

院長 永井 庸次先生

座長：(株)日立製作所ひたちなか総合病院

副院長 神賀 正博先生

講演1：「肺がんにならないための3カ条、なった後の3カ条」 15分
筑波大学附属病院

ひたちなか社会連携教育研究センター

呼吸器内科 教授 寺本 信嗣先生

講演2：「乳がんについて（仮）」 15分

(株)日立製作所ひたちなか総合病院

外科主任医長 間瀬 憲多朗先生

講演3：「血液がんについて（仮）」 15分

(株)日立製作所ひたちなか総合病院

血液内科主任医長 原田 匡一先生

質疑・応答：10分

閉会の辞：(株)日立製作所ひたちなか総合病院

副院長 神賀 正博先生

（テーマは、都合により変更となる場合がありますので、予めご了承ください。）

申し込み・お問い合わせ：事務局総務係

連絡先：029-354-6841

看護職員募集

職種：看護師（正社員）、看護補助者（契約社員）

募集人員：若干名

待遇：当社規定による

応募先：〒312-0057 ひたちなか市石川町20番1

(株)日立製作所ひたちなか総合病院 事務局総務係

（病院見学は随時行っておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。）

お問い合わせ：事務局総務係

連絡先：029-354-6841

医師異動の紹介

診療科	氏名	異動日
水戸健康管理センタ	杉本 由理	退職 (2015. 6. 30)
臨床研修医	村上 剛之	採用 (2015. 7. 1)

ひたちなか総合病院・総合健診センタ休日のお知らせ

総合健診センタ		総合健診センタ		総合健診センタ		総合健診センタ																		
日	月	日	月	日	月	日	月																	
	1	2	3	4		1	2	3																
7	5	6	7	8	9	10	11	8	2	3	4	5	10	11	12	10	4	5	6	7	8	9	10	
	12	13	14	15	16	17	18	9	9	10	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17
	19	20	21	22	23	24	25	10	16	17	18	19	20	21	22	23	24	20	21	22	23	24	25	26
	26	27	28	29	30	31		27	28	29	30		27	28	29	30		25	26	27	28	29	30	31

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センタ休日